

松下幸之助『私の行き方 考え方』－ゆかりの地をたどる

松下幸之助歴史館 準常設展 開催中



© Panasonic Corporation

現存する幸之助の最も古い写真。五代夫人と

幸之助は1954年に自叙伝『私の行き方 考え方』を世に出しました。これは、和歌山に生まれた幸之助が、大阪での丁稚奉公、松下電器創業を経て、本拠を門真に移すまでを描く半生の記録(0歳～38歳)です。自叙伝に登場する「ゆかりの地」の数々を、原文を引きながら、今昔の写真や地図とともに紹介しています。是非ご覧ください。



10歳 自転車屋の小僧

五代自転車商会に移った幸之助は、五代音吉夫妻のもと、商売のイロハを学んでいきます。また、自身の失明を乗り越えて事業で成功し、ハンディを負った子供たちを救済すべく盲啞院を設立した音吉の兄、五兵衛とのふれ合いは、社会に奉仕する理念の種子を、幼い幸之助の心に蒔いたといえます。

◀ 五代自転車商会のあった場所(★印)

2024年11月19日(火)まで / ホームページもご覧ください。

パナソニック ミュージアム



https://holdings.panasonic/jp/corporate/about/history/panasonic-museum/konosuke/places_associated.html